

有効最大約3300万画素の35mmフルサイズ 裏面照射型CMOSセンサー「Exmor R」



裏面照射型の有効最大約3300万画素のセンサーを搭載したα7C IIにII型になったGマスターのFE 16-35mm F2.8 GM IIを組み合わせて滝を撮影。引きで撮影しているにもかかわらず、画面の隅々まで高精細な写真を撮ることができた。

DATA
モード M 絞り F8 シャッター 46秒 ISO 125 WB オート
露出補正 ±0 焦点距離 26mm レンズ FE 16-35mm F2.8 GM II

AIプロセッシングユニットで 被写体認識AFの性能アップ(AI AF)



α7C IIは、専用のAIプロセッシングユニットを搭載することで、被写体認識AFの精度がアップ。メジロをこれくらいの大きさでとらえても、確実に認識・合焦してくれた。

DATA
モード M 絞り F6.3 シャッター 1/1000秒 ISO 5000 WB オート
露出補正 ±0 焦点距離 600mm レンズ FE 200-600mm F5.6-6.3 G OSS



認識対象には新たに「車/列車」が選択肢に入った。これくらいの撮影距離であれば、認識しないことはちょっと考えにくいほどの確実性があるので、「AF時の被写体認識」は常時「入」でもOKだ。

DATA
モード M 絞り F4 シャッター 1/1000秒 ISO 1600 WB オート
露出補正 ±0 焦点距離 200mm レンズ FE 70-200mm F4 Macro G OSS II

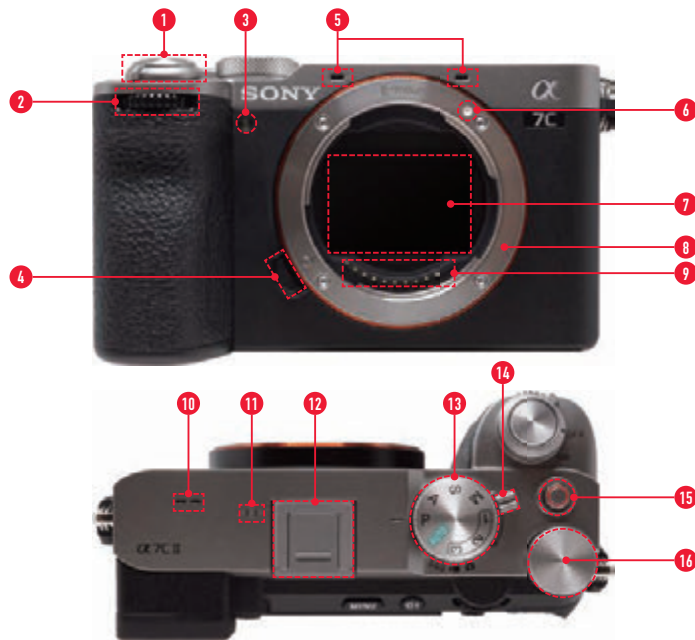
01 a7C IIの各部名称

KEYWORD ▶ 各部名称

1 ボタンの配置と名称

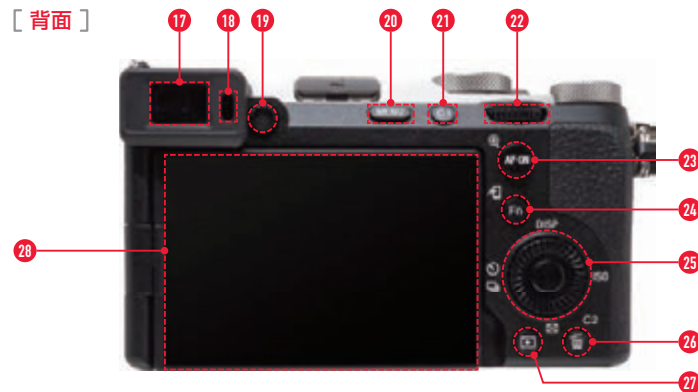
a7C IIのボディには、たくさんの機能が搭載されている。使いこなすために、まずはボディに配置された各ボタン、ダイヤルの名称を把握しておこう。

[前面・上面]



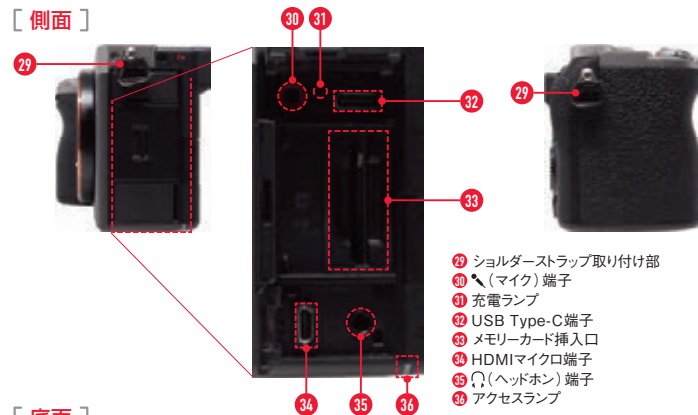
- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| 1 シャッターボタン／ON/OFF (電源) スイッチ | 10 スピーカー |
| 2 前ダイヤル | 11 イメージセンサー位置表示 |
| 3 セルフタイマーランプ/AF補助光発光部 | 12 マルチインターフェースシュー |
| 4 レンズ取りはずしボタン | 13 モードダイヤル |
| 5 内蔵マイク | 14 静止画/動画/S&Q切替ダイヤル |
| 6 マウント標点 | 15 MOVIE (動画) ボタン |
| 7 イメージセンサー | 16 後ダイヤルR |
| 8 マウント | |
| 9 レンズ信号接点 | |

[背面]



- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 17 ファインダー | 24 撮影時: Fn (ファンクション) ボタン |
| 18 アイセンサー | 再生時: 送信 (スマートフォン転送) ボタン |
| 19 視度調整ダイヤル | 25 コントロールホイール |
| 20 MENU (メニュー) ボタン | 26 撮影時: C2 ボタン (カスタムボタン2) |
| 21 C1 ボタン (カスタムボタン1) | 再生時: 削除 (削除) ボタン |
| 22 後ダイヤルL | 27 再生 (再生) ボタン |
| 23 撮影時: AF-ON (AFオン) ボタン | 28 モニター (タッチ操作時: タッチパネル/タッチパッド) |
| 再生時: 拡大 (拡大) ボタン | |

[側面]



- | |
|--------------------|
| 29 ショルダーストラップ取り付け部 |
| 30 (マイク) 端子 |
| 31 充電ランプ |
| 32 USB Type-C端子 |
| 33 メモリーカード挿入口 |
| 34 HDMIマイクロ端子 |
| 35 (ヘッドホン) 端子 |
| 36 アクセサリランプ |

[底面]



- | |
|-------------|
| 37 バッテリーカバー |
| 38 三脚用ネジ穴 |

ボディ・レンズ協調制御で手ブレ補正が7段に向上



ボディ・レンズ協調制御対応レンズのFE 70-200mm F4 Macro G OSS IIをつけて、シャッタースピードを1/4秒で手持ち撮影した。手ブレ補正が強力なので、コンパクトなボディの機動力を生かして、手持ちでさくさく撮ることができる。

DATA									
モード	M	絞り	F11	シャッター	1/4秒	ISO	125	WB	オート
露出補正	±0	焦点距離	70mm	レンズ	FE 70-200mm F4 Macro G OSS II				

動画撮影で自動クロップする「オートフレーミング」



三脚でカメラ位置を固定して、「オートフレーミング」で撮影することで、あたかもカメラを振りながら撮影したかようになる。階段を降りてきていることがわかるように、クロップレベルは「小」に設定した。

カスタム設定 ▶ 記録方式 XAVC HS 4K 記録フレームレート 24p

DATA									
モード	M	絞り	F8	シャッター	1/50秒	ISO	800	WB	オート
露出補正	±0	レンズ	FE 70-200mm F4 Macro G OSS II						



すしを食べる前のうれしそうな表情を手持ちで撮影した。「オートフレーミング」に設定することで、単焦点レンズでもズームアップしたかのように撮ることができた。

カスタム設定 ▶ 記録方式 XAVC HS 4K 記録フレームレート 24p

DATA									
モード	M	絞り	F5.6	シャッター	1/50秒	ISO	125	WB	オート
露出補正	±0	レンズ	FE 35mm F1.4 GM						

02 フォーカスエリア

KEYWORD ▶ フォーカスエリア ▶ フォーカス枠

1 各エリアの特徴

撮影時において、ピントを合わせる位置の判断をするのがフォーカスエリアであり、α7C IIでは6種類のエリアから選ぶことができる。カメラから一番近いところに合わせたり、人間の顔を検出したり、さらにはその顔の中の瞳にピントを合わせたりと、手動から全自動まであらゆる方法から選べる。撮影する状況や被写体に応じて切り換えてみよう。

[フォーカスエリアの種類]

ワイド	モニター全体を基準に、自動ピント合わせをする。
ゾーン	モニター上でピントを合わせたいゾーン的位置を選ぶと、その中で自動でピントを合わせる。
中央固定	モニター中央付近の被写体に自動ピント合わせをする。フォーカスロックと併用して好きな構図で撮影が可能。
スポット(S/M/L)	モニター上の好きなところにフォーカス枠を移動し、非常に小さな被写体や狭いエリアを狙ってピントを合わせる。
拡張スポット	「スポット」の周囲のフォーカスエリアをピント合わせの第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周辺のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。
トラッキング	フォーカスモードが「コンティニュアスAF」のときのみ選択可能。シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。

[設定方法]



AF_{MF} (フォーカス) から[フォーカスエリア]→[フォーカスエリア]を選ぶ。またはC2ボタンを押す。



希望のフォーカスエリアを選択し、コントロールホイールの中央を押す。

2 フォーカスエリアの登録

自分がよくピントを合わせる場所が決まっている場合は、フォーカスエリア登録機能が便利だ。これは、カスタムキー (→P.102) を使ってフォーカス枠をあらかじめ登録した位置に一時的に移動させることができる機能である。例えば、フォーカススタンダードを任意のボタンに割り当てておくと、ボタン1つでフォーカス枠をすばやく移動することができる。カスタム登録をする際は、「押す間」なら割り当てたボタンを押している間だけ、「再押し」なら一度押せば登録位置にフォーカス枠が移動し、戻らない。

[設定方法]



AF_{MF} (フォーカス) から[フォーカスエリア]→[フォーカスエリア登録機能]を選び、[入]に設定する。



フォーカスエリアを希望の位置に設定し、Fnボタンを長押しする。



(セットアップ)の[操作カスタマイズ]→[カスタムキー/ダイヤル設定]から希望のキーを選び、[押す間登録フォーカスエリア]を選択する。撮影画面で割り当てたキーを押すと、設定した位置にフォーカス枠が表示される。

[拡張スポット×フォーカススタンダードの場合]



拡張スポットのフォーカス枠が表示される。



フォーカススタンダードを割り当てたキーを押すと、コントロールホイールでフォーカス枠が移動できる。

[中央固定の場合]



モニター中央付近の被写体に合わせてフォーカス枠が固定される。



撮影ポジションを変えても、中央にフォーカス枠が表示され続ける。

08 フォーカス機能の設定

KEYWORD ▶ AF-S・AF-Cの優先設定 ▶ ピント拡大時のAF ▶ AF時の絞り駆動

1 AF-SとAF-Cの優先設定の変更

フォーカスモードがAF-S、AF-C、どちらのときでもピント合わせの優先設定を「フォーカス優先」「リリース優先」「バランス重視」の3つから選択することができる。「フォーカス優先」はピントが合ったとカメラが判断したときにシャッターが切れる設定で、「リリース優先」は合焦よりもシャッターを切ることを優先する設定で、「バランス重視」はこの2つの中間的なものだ。

[設定方法]

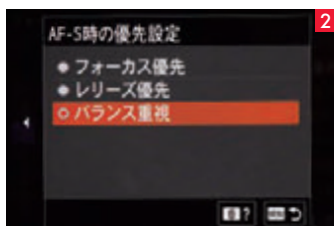


AF_{MF}(フォーカス)から[AF/MF]→[AF-S時の優先設定]を選ぶ。

[AF-S時優先]



AF-Sでは、被写体が何であれ、どのようなシーンでも常時「フォーカス優先」に固定している。



希望の設定を選択し、コントロールホイールの中央を押す。

[AF-C時優先]



AF-Cで撮るときは、シーンによって設定を変えている。このときは「バランス重視」に設定して、巣材を運ぶアオサギを撮影した。

2 ピント拡大時のAF利用

ピント拡大中のAFを「入」にすることで、シビアなピント合わせを確実にすることができる。動きのある被写体を撮るときや手持ちでの撮影には向かないが、筆者は、三脚を使って静物を撮影するときには必ずと言っていいほど活用している。大変便利なので、ぜひ試してほしい。

[設定方法]



AF_{MF}(フォーカス)の[AF/MF]→[ピント補助]→[ピント拡大中のAF]を選び、[入]に設定する。



[ピント補助]から[ピント拡大]を選ぶ。



コントロールホイールで枠を拡大したい位置に移動してコントロールホイールの中央を押すと、拡大表示される。



コントロールホイールの中央を押すたびに拡大中の倍率が切り換わり、▲/▼/◀/▶で拡大位置を移動できる。

3 AF時の絞り駆動の設定

α7C IIはレンズの絞り駆動方式を「フォーカス優先」「標準」「サイレント優先」の3つから選ぶことができる。「フォーカス優先」はフォーカスの精度とスピードは向上するが、絞りの駆動音が鳴ることがある。「サイレント優先」は絞り駆動音を抑える設定だが、フォーカスのスピードが遅くなることがある。「標準」はフォーカスとサイレントのバランスを重視した設定である。

[設定方法]



AF_{MF}(フォーカス)の[AF/MF]→[AF時の絞り駆動]を選ぶ。



希望の設定を選ぶ。

被写体認識AFの
撮影(応用編)

KEYWORD 被写体認識 認識部位切換

1 動く人物の撮影

a7C IIは、専用のAIプロセッシングユニットを搭載することで、骨格情報や姿勢推定技術による判別処理を行うことができ、これまでもよりも高精度に被写体認識をすることが可能となった。人間を撮る場合は顔がマスクやサングラスで覆われているシーンでも、認識・合焦し続けることができる。



自転車走っているところを撮影。ペダルをこぐ足が動き続けているにもかかわらず、瞳をロストすることなく、認識・合焦し続けた。

ONE
POINT

常に被写体認識を設定する癖を付ける

これまでは、人が歩いたり、走ったりしているときは被写体認識に問題はなかったが、自転車などに乗っているときは瞳をロストすることがあった。これを解消したのが被写体認識AFだ。人物が速く動く場合の撮影では、被写体認識AFは常に[入]にしておくとういだろう。

2 認識部位切換で野鳥を撮影

認識対象を「鳥」に設定した場合、これまでの瞳に加えて、新たに頭や体の認識も可能になった。認識対象を鳥に選んだ後、上から4番目の認識部位のところから「瞳/頭/体」「瞳/頭」「瞳」の3つから選択することができる。筆者の場合、通常は「瞳」で、カメラ位置から鳥までの距離が遠いときや体の一部が見えていないときは、「瞳/頭/体」か「瞳/頭」に認識部位を変えて撮影することが多く、瞳を認識できなかった場合に備えている。



曇天で光が拡散し、尾が見えていないシーンだったので、認識部位を「瞳/頭」に設定してオナガガモを撮影した。

3 動く列車を撮影

認識対象を「車/列車」に設定して、動く電車などを撮影するときは、フォーカスモードを「AF-C」にして、フォーカスエリアは、「トラッキング:○○」に設定する。○○のところは、列車のほとんどがフォーカスエリアの枠内に入る広めのエリアを選択することが多い。こうすることで、認識し、追従し続けてくれる。



こちらに向かって走ってくる電車を「AF-C」+「トラッキング:ゾーン」で撮影。撮りたい場所にくる少し前からシャッター半押しを続け、狙いのところにくる直前から全押しして連写した。

05 ISO感度

KEYWORD ▶ ISO感度 ▶ 画質 ▶ ISO AUTO

1 ISO感度の目安

フィルムの粒子を荒くすることで、光を通しやすくして、光に対する感度を高めたフィルムを高感度（ISO感度が高い）フィルムという。逆に、粒子を細かくすることで、光は通りにくくなるが、きめ細かい画質で撮れるフィルムを低感度（ISO感度が低い）フィルムという。デジタル時代の今は、ISO感度は電氣的に光を増幅させている違いはあるが、フィルムに準じて考えて問題はない。

[設定方法]



1 コントロールホイールの▶(ISO)を押すと、ISO感度の設定画面がモニターに表示される。



2 ▲/▼でISO感度を希望の数値に変更できる。

[ISO感度の目安]

ISO100～400	高画質で写真を残したかったので、三脚＋セルフタイマーで0.4秒で撮影。ISO感度を200で抑えることができた。	
ISO400～1600	ほんの少しではあるが、モズがとまっている枝が揺れていたため、ブレないギリギリのところを落とし所とし、ISO感度を800で抑えた。	
ISO1600～6400	三脚がないときは、手ブレ補正の活用とISO感度を上げて対応する。このときはISO感度を3200で撮影した。	
ISO6400～	メジロがちょこまかと動き回っていたので、シャッタースピードを上げる必要があり、ざらつきは犠牲にして、ISO感度を6400に上げて対応した。	

2 ISO AUTOの詳細設定

ISO感度は、絞り値とシャッタースピードを補完する役割を担うことが多いので、P/A/Sモードの自動露出で撮影する際に、ISO感度が自動で設定される範囲を登録しておくといふ。ISO AUTO時のISO感度の上限を設定しておけば、自動でISO感度が限界まで上がり、画質が粗くなってしまうのを防げる。また「低速限界」では、P/AモードでISO AUTOに設定している際、シャッタースピードの変動による望まないブレやノイズが発生してしまうのを防ぐため、ISO感度が変わりはじめるタイミングを指定することもできる。

[上限・下限の設定方法]



コントロールホイールの▶(ISO)または、[露出/色]→[露出]→[ISO感度]から[ISO AUTO]を選び、コントロールホイールの▶を押す。



[ISO AUTOの下限]の希望の値をコントロールホイールの▲/▼で設定する。



コントロールホイールの▶を押し、[ISO AUTOの上限]を同様に設定する。

[低速限界の設定方法]



1 [露出/色]から[露出]→[ISO AUTO 低速限界]を選ぶ。



2 希望の設定を選択する。

[ISO AUTO低速限界の種類]

SLOWER(より低速)/SLOW(低速)	[標準] よりも遅いシャッタースピードでISO感度が変わりはじめるため、ノイズの少ない写真を撮影できる。
STD(標準)	レンズの焦点距離に応じてカメラが自動で設定する。
FAST(高速)/FASTER(より高速)	[標準] よりも速いシャッタースピードでISO感度が変わりはじめるため、手ブレや被写体ブレを抑えることができる。
1/8000 ～ 30"	設定したシャッタースピードでISO感度が変わりはじめる。

01 標準ズームレンズ

KEYWORD ▶ 動画 ▶ 露光間ズーム

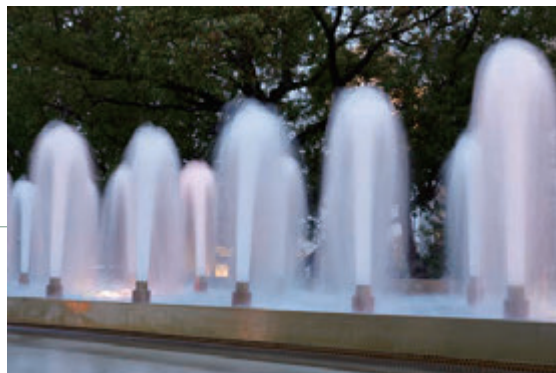
1 標準ズームレンズの効果

近年の標準ズームの定番域は2つある。1つめは、24-70mmのF2.8で、もう1つは、ここで紹介する24-105mmのF4だ。FE 24-105mm F4 G OSSは、24-70mmのF2.8と比べると、開放が1段暗いF4ではあるものの、ズームレンジは広く、望遠側は105mmまであり、利便性に長ける。重さも663gと軽く、コンパクトで持ち運びやすく、解像力も確かなので、手元に1本持っておきたいレンズだ。



FE 24-105mm F4 G OSS

焦点距離：24-105mm
開放絞り値：F4
レンズ構成枚数：14群17枚
フィルター径：φ77mm
最短撮影距離：0.38m
オープン価格



DATA	
モード	M
絞り	F16
シャッター	1秒
ISO	125
WB	オート
露出補正	+0.7
焦点距離	61mm

噴水を近くからスローシャッターで撮影。収まりよく画面をまとめるために、ズーム域を61mmにして撮影した。

2 動画撮影

FE 24-105mm F4 G OSSは動画撮影にもおすすめのレンズだ。ズームレンジが広角24mmから中望遠105mmと広く、AF駆動が静音性に優れている。また、開放がズーム全域でF4固定されている。以上の3つの理由から、筆者にとって、動画を撮影するときのファーストチョイスのレンズとなっている。ズームリングも滑らかなので、ズーミングの操作も快適にできる。



解像力が確かなのは言うまでもなく、ボケもF11まで絞っているが、滑らかで、フォーカスポイントから離れていくにつれて溶けていくようなボケ味だ。マニュアルフォーカスにしてピントを合わせたが、フォーカスリングは滑らかで操作しやすい。

3 露光間ズーム

ズームリングが滑らかなので、露光間ズームも試してみよう。三脚を使ってカメラを固定し、イルミネーションなどを被写体に、1/2秒から4秒ぐらいのシャッタースピードを目安に、シャッターを開けている間にズームリングを動かすことで、飛び出るような写真が撮れる。



左の撮影現場で、シャッタースピードを2秒にして、露光中に24mm側から中間域あたりまでズーミングした。

03 クリエイティブルック

KEYWORD クリエイティブルック

1 クリエイティブルックの設定

クリエイティブルックとは、カメラにあらかじめセットされた作画りのプリセットである。搭載されたルックの中から画像の仕上がりを選ぶことができ、さらに、ルックごとに、コントラスト、ハイライト、シャドウ、フェード、彩度、シャープネス、シャープネスレンジ、明瞭度なども微調整できる。

[クリエイティブルックの種類]

[ST]	ST	被写体・シーンに幅広く対応する標準の仕上がり。
[PT]	PT	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
[NT]	NT	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気に表現する。パソコンでの画像加工に適している。
[VV]	VV	彩度とコントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
[VV2]	VV2	明るく鮮やかな発色で、明瞭度の高い画像に仕上がる。
[FL]	FL	落ち着いた発色と印象的な空や緑の色味に、メリハリのあるコントラストを加えることで雰囲気のある画像に仕上がる。
[IN]	IN	コントラストと彩度を抑えたマットな質感に仕上がる。
[SH]	SH	透明感・柔らかさ・鮮やかさを持つ明るい雰囲気に仕上がる。
[BW]	BW	白黒のモノトーンで表現する。
[SE]	SE	セピア色のモノトーンで表現する。

[設定方法]



2 10種類のプリセットの撮影

クリエイティブルックは写真のコントラストや彩度などをカメラが調整してくれる機能のことで、a7C IIでは「ST」「PT」「NT」「VV」「VV2」「FL」「IN」「SH」「BW」「SE」と10種類が用意されている。JPEG撮って出し派の人はクリエイティブルックをいろいろと変えながら、そのシーンに最適なイメージのものを見つけてほしい。なお、RAWには反映されないので注意しよう。

[ST]



標準的な仕上がりになる「ST」で見た目に近いイメージとした。

[PT]



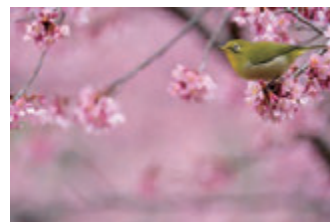
肌の色が自然になる「PT」は、やはり人物の撮影に向いている。

[NT]

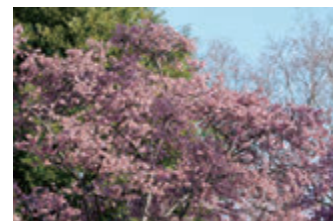


落ち着いた雰囲気で撮影したかったので、「NT」を選択した。

[VV]



鮮やかなオカメザクラにメジロが止まっていたので、インパクトのある仕上がりが期待できる「VV」で撮影した。



[VV2]

ピンク、緑、青と、それぞれの色をより鮮やかにしたかったので、「VV2」にセットして撮影した。

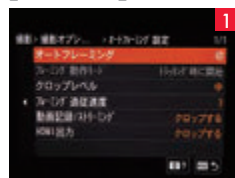
オートフレーミングを
活用する

KEYWORD ▶ オートフレーミング

1 オートフレーミングとは

オートフレーミングとは、動画撮影時に認識した被写体をクロップ（画面の切り出し）することによって、カメラが自動でフレーミングを変えることをいう。クロップレベルは「小」「中」「大」の3つから選択することができ、フレーミング動作モードは「トラッキング時に開始」「自動開始」「自動開始（15秒切換）」「自動開始（30秒切換）」の4つから選べる。

[設定方法]



1 ▶ (撮影) から [撮影オプション] → [オートフレーミング設定] → [オートフレーミング] を選ぶ。



2 [入] を選ぶ。

[オートフレーミング: 切]



[オートフレーミング: 入]

オートフレーミング [切] と [入] (クロップレベル大) を見比べると、明らかに画角が違うことがわかる。

2 オートフレーミングによる撮影

作例の2点は同じ日に同じ場所で動画撮影したもので、2点ともにオートフレーミングの設定を入にしている。三脚でカメラ位置を固定して、35mmの単焦点レンズで撮影しているが、▶ (撮影) から [撮影オプション] → [オートフレーミング設定] → [フレーミング動作モード] を [自動開始 (15秒切換)] か [自動開始 (30秒切換)] の設定にすれば、ズームレンズを使って、ズーミングしてカメラを振りながら撮影したかのように撮れる。オートフレーミングはぜひ1度試していただきたい。

[設定方法]



1 ▶ (撮影) から [撮影オプション] → [オートフレーミング設定] → [クロップレベル] を選ぶ。



2 希望の設定をコントロールホールの▲/▼で選ぶ。

[クロップレベル: 小]



クロップレベルを [小] にして撮影。広角レンズで撮影したが、クロップされることで、体感的には標準レンズで撮影したかのようなイメージになる。

DATA

モード M 絞り F11 シャッター 1/50秒 ISO 800 WB オート
露出補正 +0.7 焦点距離 35mm レンズ FE 35mm F1.4 GM

[クロップレベル: 大]



クロップレベルを [大] にして撮影。大きくクロップされ、まるで望遠レンズで撮影したかのようなイメージになる。